

第二次世界大戦の終結から80年が経った現在、人類はかつてないほど豊かで平和な時代を迎えています。多くの国で、誰もが平等に自分らしく生きられるリベラルな社会が実現しつつあり、これは人類史上まれに見る喜ばしい変化です。しかし、光が強ければ影もまた濃くなるように、この豊かさの影で、差別や偏見、環境破壊、そして地球温暖化による気候変動といった未曾有の危機も生じています。

第14回東日本リジョン・ユース・フォーラムに参加した私は、環境危機が想像以上に深刻であることを知りました。同時に、気候変動対策は「やらなければ悲惨な結果になる」だけでなく、「早く取り組むほど効果が大きい」ものであり、必要な資金や技術も人類はすでに持ち合わせていることを学びました。したがって、私たちは今すぐにでも行動を起こすべきです。しかし現実には、多くの人々が問題を認識しながらも見て見ぬふりをしています。これは、社会のリベラル化に伴う個人主義化によって、目先の利益ばかりを追求する傾向や、膨大な情報の錯綜によって正確な情報を得る機会や深く考える時間が失われていることが原因だと私は考えます。現代社会では、自分自身のことで手一杯になり、他者を思いやる想像力が失われがちです。

今後もこの自由で平和な社会を享受し続けるためには、私たちはこれらの問題に真剣に取り組む必要があります。その際に鍵となるのが「想像力」です。想像力があれば、地球の未来を思い描き、他者の立場に立って考えることができます。想像力はあらゆる行動や創造の出発点です。ジョン・レノンの名曲「Imagine」は、この想像力の重要性と可能性を力強く訴える作品だといえるでしょう。

では、想像力を養うためにはどうすればよいのでしょうか。私の答えは「読書」です。本は知識を与えてくれるだけでなく、思考力と静かな孤独の時間をもたらしてくれます。しかし現代人にとって、この「孤独」も失われつつあります。「リベラル化した社会では個人主義が広がっているのだから、孤独な人はむしろ増えているのではないか」と疑問に思う方もいるかもしれません。確かに表面的にはその通りです。しかし現代人は孤独を避けるため、SNSなどの情報技術に常時アクセスし、他者とつながろうとしています。その結果、かえって一人で静かに過ごす時間が減少していると私は考えます。さらに、「豊かさは目を曇らせる」という言葉が示す通り、便利さや快適さに満たされた現代では、あえて孤独に身を置き深く考える時間の価値が見失われがちです。

孤独は決して悪いものではありません。むしろ孤独の中でこそ、じっくりと物事を考える機会が生まれ、初めて他者や世界の存在を深く認識することができます。読書を通じて、私たちは想像力と、想像するための時間を得ることができます。そして想像力を持つことで、環境破壊や気候変動といった地球規模の問題だけでなく、ジェンダー問題や差別問題といった複雑な社会課題についても考えられるようになるのです。

近年、世界は急速にリベラル化しています。そして同時に、各国では自国第一主義的な思想も広がっています。すべての人が環境問題や社会課題に関心を持っているわけではありません。しかし、いま行動を起こさなければ、これらの問題は取り返しのつかない状況に陥るかもしれません。私たちはこれを「貧乏くじを引いた」と嘆くのではなく、地球に生きる一員として、すべての人が真剣に考え、行動していくべきなのです。

この文章が、少しでも皆さんの考えるきっかけになれば幸いです。